

# かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室  
発行責任者：亀田俊明 編集責任者：蔵本浩一

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)

## contents

P2 … 地域医療を担う専門性を活かした  
質の高い医療・介護の紹介

(02：周麻酔期看護師の活動紹介)

スポーツメディカルドックの紹介

(01：痛みのせいで運動を諦めないで!)

P3 … 診療支援部のご紹介

P4 … 地域医療機関さまより

P5 … 当院診療科より

P6 … セルフケアサポートセンター紹介

P7 … スタッフひろば

マイブーム

P8 … トピックス 勉強会・研修会開催のご案内

Zzz...

### (02) 周麻酔期看護師の活動紹介

周麻酔期看護師 坂本 亮

#### 1. 周麻酔期看護師とは

周麻酔期看護師とは周麻酔期(術前～術中～術後)に特化した院内認定看護師です。麻酔を理解し、看護師として麻酔科医と協働し緊急時には救命措置も行うなど、安全・安心な麻酔や看護を提供します。麻酔業務補助に必要な高次気道確保や呼吸循環管理・疼痛管理の技能、周手術期の看護を身につけています。看護師ならではの視点で患者・患者家族と関わることができます。

#### 2. 周麻酔期看護師の活動内容

当院では日本麻酔科学会認定の麻酔指導医・専門医の指示のもと、術前の患者評価や説明・麻酔中の全身管理・術後疼痛管理サービス(Acute Pain Service: APS)・無痛分娩での介助及び管理・術前外来での診療・検査などの鎮静鎮痛管理など手術室内外で多岐に渡り麻酔業務や看護に関わります。研修中には麻酔科学会認定周術期管理チーム看護師資格・特定行為研修術中麻酔管理に関する行為を取得し、看護師としての基礎知識・技術向上も図っています。当院のプログラムは、IFNA(International Federation of Nurse Anesthetists) level1プログラムに認定されています。

#### 3. 周麻酔期看護師の実績

現在周麻酔期看護師は研修生を含め9名(5名は院内認定取得者)おり、全員が麻酔業務に携わっています。中央手術室での手術件数7,500件の内、周麻酔期看護師が

約3,000件の麻酔業務に従事し、年間320件/人程度の件数をこなしています。手術麻酔だけでなく無痛分娩135件の介助・管理や術後疼痛管理サービス、術前外来にも携わり厚労省が推進する医師のタスクシフトも可能となっています。看護師として患者・患者家族と関わることで「看護師さんだと話しやすい色々聞きやすい」「麻酔されるのは怖いけど看護師さんと一緒なら大丈夫」といったようなお言葉も頂き、看護師だからこそ思いを表出できるような関わりや麻酔を受けるという漠然とした不安に対して寄り添い、心理的サポートも行うことができています。

現在いる周麻酔期看護師は元々手術室・集中治療室・救急外来などから異動してきており、継続的に各部署に戻って看護業務やスタッフ教育も担っています。

#### 4. 今後の展望

手術室内麻酔業務の充実化が図れている一方で、手術室外麻酔に関してはまだまだ介入できていない部分があります。今後の展望として、手術室外麻酔(non-operating room anesthesia: NORA)の拡大を行い、内視鏡室・画像センター・心臓カテーテル室などの院内で行う麻酔・気道管理症例を麻酔科(医師・周麻酔期看護師含め)で管理していくことで、気道管理のプロフェッショナルである麻酔科が関わることで、より安全な医療や看護が提供できると考えています。

## スポーツメディカルドックの紹介

### 痛みのせいで運動を諦めないで！

スポーツ医学科 / 健康管理科 蔵本 理枝子

前は、寝たきりにならないために健康寿命<sup>\*1</sup>を延ばすことが重要で、今の自分の運動器の状態を客観的に知るための「筋肉・歩行力検査」<sup>\*2</sup>についてご紹介しました。

今回は2022年冬より開始予定の「スポーツメディカルドック」のご紹介です。これは1日2名限定で月に2回開設される、運動器に特化した人間ドックです。

以前から私は、トライアスロンというスポーツを楽しんでいましたが、周りの仲間からは、「走るとひざが痛い」、「肩が痛くて泳げない」といった相談を受けてきました。痛みのせいで練習できない、パフォーマンスも上がらない、無理をして肉離

れなどの怪我をして運動ができなくなるといった具合です。実際に診察をしてみると、身体の機能が低下していること(長年の姿勢の変化や筋肉の質の低下、関節の可動域の低下など)に気づかずに、若い頃と同じような気持ちで運動を始めた結果、様々な不具合が出ていました。安静や痛み止めの内服で症状は緩和するかもしれませんが、運動を再開すると痛むの繰り返しでは楽しむことはできません。この人間ドックでは、機能が低下した運動器の状態を知り、その対策を知ることが目的としています。現在痛みがない方も、自分の弱みを知ること、いつまでもスポーツを楽しんでいただきたいと思います。

# メディカルレポート

## 診療支援部のご紹介

診療支援部 部長 中後 淳

皆さんは医師事務作業補助者という仕事を聞いたことがあるでしょうか。医師事務作業補助者は、医師の負担を軽減するために事務業務や書類作成などを支援するのが仕事で、医療クラークやメディカルクラークなどと呼ばれることもあります。

他の業界と同様、医療業界も働き方改革が国策として進められており、2024年度から「医師の働き方改革関連法」が適用されます。医師事務作業補助者は制度としては2008年度からスタートしていますが、医師の働き方改革を進めるうえでその役割が改めて注目されています。診療支援部は医師事務作業補助者を中心に構成された部署で3課からなります。医師や診療科を支援する診療支援課、入院患者さまに関する事務作業や診断書作成などを行うメディカルクラーク課、医師の人事業務を行う医師人事課の3課です。

診療支援課には24名のスタッフがいます。全診療科の支援を行う総合支援係と、各診療科の支援を行うアシスタント係があり、医師と一番近い距離で働く事務スタッフのひとつだと思います。診療科の秘書のようなイメージでしょうか。



メディカルクラーク課には54名のスタッフがいます。その約6割は病棟で入院患者さまの対応を行う病棟クラークです。病棟クラークは各病棟のケアチームステーションで医師や看護師、その他医療スタッフとともに入院患者さまに直接関わる事務スタッフになります。入院患者さまに一番近い距離で働く事務スタッフだと思います。またメディカルクラーク課には診断書を作成するチームや、医師の秘書、その他医師事務作業補助者として業務を行う事務スタッフが配置されています。

医師人事課には6名のスタッフがいます。その名の通り医師の採用や人事異動、処遇対応など人事に関する業務を専門に行う集団です。医師事務作業補助の業務とは異なりますが、医療機関を支える医師の人事というとても重要な業務を担っています。

医師の働き方改革に先立ち、診療支援部としても働き方改革が大きなテーマになっています。約80名のスタッフが自律的に協力し、助け合っている職場環境を築くために、昨年度大幅な組織体制の再構築を行い、チーム制の導入や情報システムの活用による業務効率化を進めているところです。まだまだ改革は始まったばかりですが、医療機関を支えるスタッフとして、少しでも働きやすい、働き甲斐のある職場を目指して部員一同日々精進しています。

### こんな方にオススメです

- ✔ スポーツによる怪我、痛みを減らしたい
- ✔ 安心してスポーツを楽しみたい
- ✔ スポーツにおけるパフォーマンスをアップしたい
- ✔ ダイエットや生活習慣病の予防・改善のために運動したい



この検査では、まず午前中に心電図検査、体組成の細かい検査、スポーツ専門整形外科医による全身の運動器の診察を行います。診察ではスポーツ歴や問診で全身状態を理解した上で、姿勢や痛みの確認、全身の関節のチェック、超音波検査などを行います。午後からは熟練したトレーナーによる運動器の機能チェックを行います。具体的には筋肉の柔軟性や関節の動き、機能、持久力のテスト、筋力測定などです。その後、個々の結果から抽出されたオーダーメイドのストレッチ

や機能改善のためのエクササイズをトレーナーが直接指導いたします。今後も引き続きトレーニングを希望される方には、検査を担当したトレーナーが所属する亀田クリニック5階にあるスポーツ医科学センターのご利用をお勧めしています。

受けていただく方のスポーツのレベルは問いません。少しでも身体を動かしたいと考えている方であればどなたでも申し込みいただけます。(体力検査にややハードな運動が含まれるため、狭心症などの心疾患や急性の病気ををお持ちの場合は、事前に主治医の許可が必要です)

このスポーツメディカルドックは2022年冬より予約開始予定です。具体的な日程、時間、料金につきましては、**亀田クリニック健康管理センター04-7099-1115(10:00~16:00 日曜・祝日を除く)**までお問い合わせください。

※1 健康上の問題がなく介護を必要としない状態で日常生活を過ごせる期間のこと  
 ※2 亀田クリニック健康管理センターで8月から始まった人間ドックのオプション



# 地域医療機関さまより



かもがわしりつこくほびょういん  
**鴨川市立国保病院**

病院長 小橋孝介



鴨川市立国保病院は昭和24年2月8日旧吉尾村国保組合直営診療所として開設されました。開設にあたっては、延べ700人を超える地域の皆様の勤労奉仕によって建設用地の埋め立て等が行われ、「おらが村の病院」として地域の皆様に支えられ、70年以上地域に根を張って医療を提供して参りました。70年余の歴史の中で町村合併に伴い、長狭町国保直営長狭国保病院(昭和37年)、鴨川市立国保病院(昭和60年)と名称が変わり、昭和48年、令和3年と2度の建物建て替えを経て現在に至ります。昨年「かめだより73号」で前院長の小山が新病院開院にあたって概要を紹介しておりますが、改めて地域医療という視点で当院の特徴を紹介させていただきます。

## <病棟>

病床数：70床(地域包括ケア病床52床、医療療養病床10床、介護療養病床8床)地域の皆様や施設に入所中の皆様の緊急時の入院加療や急性期病院での加療が終わり在宅復帰へのリハビリ目的での転院受け入れなど、地域包括ケア病床としてサブアキュート機能、ポストアキュート機能を中心に担っております。

## <外来>

診療科目：内科 / 小児科 / 循環器内科 / 脳神経内科 /

整形外科 / 眼科 / 耳鼻いんこう科 / 泌尿器科 / 皮膚科 / リハビリテーション科 / 歯科

## <訪問診療・訪問看護・訪問介護>

現在100件/月を超える訪問診療を行っています。訪問範囲は鴨川市のみならず、富津市、君津市、南房総市などにも医療を届けております。院内に併設する訪問看護ステーション、ヘルパーステーションとも密に連携し、患者、家族中心の医療を展開しております。また、看取りについても地域包括ケア病床を利用しつつも患者・家族のおもいに寄り添い、在宅での看取りも行っております。

## <医療・介護連携支援室>

医療ソーシャルワーカー3名と退院支援看護師1名が、入退院支援だけでなく、患者・家族の様々な困りごとに対応しております。

## <福祉総合相談センター・長狭>

市の地域包括支援センターとして、令和4年4月に病院併設で「福祉総合相談センター・長狭」が開設されました。今までも公立病院として医療・福祉の連携に力を入れて参りましたが、病院内に市の福祉の窓口ができたことで、よりシームレスな連携ができるようになりました。

## <公開講座>

平成20年より2か月毎に50回以上地域の皆様に向けた公開講座を行って来ましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の流行にともない、令和2年度から中断しておりますが、今後再開を予定しております。地域に開かれた病院として、予防や健康増進だけでなく、今後は地域の新たな健康文化を創り育てる活動にも力を入れて参りたいと考えています。

## <おわりに>

私は、令和4年10月より地域医療の発展に尽力されてきた諸先生方の思いを引き継いで病院長に就任いたしました。鴨川市唯一の公立病院として、地域の皆様に寄り添い、子どもから大人まで、安心して年を重ね、笑顔で人生の終わりを迎えられるような地域づくりに貢献していけるよう精進して参ります。また、迫り来る超高齢化社会に向かって、安房地域全体が一体となって新しい地域医療の枠組みを創造していくことは必要不可欠であり、亀田総合病院をはじめお互いに手と手を取り合い、医療者として私たちは常に患者・家族が中心にあることを忘れずに、皆で地域と真摯に向き合っていけたらと願っております。



# 当院診療科より

脳神経内科

脳神経内科部長 福武敏夫



脳神経内科といってもその役割や仕事は大学や市中病院、クリニックではそれぞれかなり異なる。市中病院であってもその所在地でそれぞれ特徴がある。

その意味で、**当院当科の特徴は「地域密着型」**である。もちろん、当地は観光地であり、東京やもっと遠くから旅行客が来て、たまたま脳卒中などを発症して入院された方や、時には(記憶にあるだけで)北海道や九州、佐渡島などからもはるばる当科を訊ねてくる方もあったし、当地の家族を頼って相談しにみえる方もいる。そうした方々にとっても、当院の地域医療連携室のノウハウが大いに発揮される。例えば、宮崎から認知障害の両親を連れていきなり当科をたずねてきた娘さんがあった。それぞれ異なる病型であったが、診断後に、連携室が同県の方々に連絡して2人を受け入れてくれる病院/施設を探しあててくれて、娘さんは安心して帰っていったことがある。

さて、当院当科が「地域密着型」である主な理由は4つある。

## 理由1

脳卒中の診断と治療にある。脳梗塞では急性発症時にt-PA(血栓溶解)療法の適応があるか、脳血管内治療科との連携で血管内カテーテルによる再開通治療の適応があるかを見極める必要がある、その時間制限がある。そこで安房地域医療センターとは密接に連携して

いるが、より遠方からの受け入れは困難である。もちろん、ドクターヘリによって受け入れ地域はそれ以前よりも拡大している。脳出血は脳神経外科が引き受けているが、土日と夜間では緊急手術を要するかなどを画像共有で相談し、引き継げるまでは当科で経過を観察している。これら脳卒中は発症時の判断が大切であるので、地域内で(院外・院内を問わず)FAST(Face=顔の歪み、Arm=片側上肢の落下、Speech=呂律障害/会話困難、Time=来院までの時間)による連絡を促す啓発を行ってきている。しかし、地域特性として高齢者が多い、一人暮らしが多いなどもあり、しばらく自宅で様子を見る患者さん/家族がまだまだ多い。このような発症時の問題の他に、リハビリテーションの継続では亀田ファミリークリニック館山や館山病院など、再発予防(特に内科的管理)では真木クリニックやひあり内科医院、七浦診療所、花の谷クリニック、鋸南やまだ内科ほか多くの医院にお世話になっている。

## 理由2

種類の多い神経難病の中でも、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などでは、診断すれば済みではなく、その後の通院やケア、訪問看護/リハや必要時の入院(薬剤治療の見直し、胃瘻造設、呼吸管理)など小まめな診療が必要であり、おのずと診療圏に限られる。その中で、特定疾患や身体障害者手帳、介護保険、障害年金の認定に向けた相談やそれらの利用について地域連携室との情報共有を進めている。

## 理由3

その他の様々の神経疾患、即ち脳~脊髄~末梢神経の感染性・炎症性疾患、代謝性疾患、てんかんなどの診断と治療への責任があり、非常勤医師による検査を含めた診療体制とともに、特殊検査が必要な場合には東京・千葉など全国各地の大学/研究施設との連携体制も作り上げてきている。

## 理由4

総合病院故に、診療各科の通院患者や入院患者は数多く、その中で神経症状、特に意識障害、けいれん、運動障害などが出現した場合に、そのコンサルトに応じて診断や治療に助言するのも大事な役割である。これらの仕事が時に当直医の仕事の過半を占めることすらある。

以上のような仕事を専門医7名、非専門医5名、ローテーター1~3名、非常勤外来/検査医8名で行っているが、今後も十分な体制を維持していくためには、地域医療に携わる方々から脳神経内科の重要性について声を挙げていただけることを祈念したい。

# セルフケア サポートセンター紹介

## 安心して仕事に専念できる 心の健康づくり(メンタルヘルス) のサポート

人事部 職員厚生課 セルフケアサポートセンター  
大林 裕司／玉澤 知恵美／結城 瞳

厚生労働省の2020年「労働安全衛生調査」によると、日本人の「仕事や職業生活に関することで強い不安・悩み・ストレスを感じる」労働者の割合は54.2%となっており、おおよそ60%前後でずっと推移しています。もちろん、仕事をしていてストレスを感じない人はないだろうとも考えられますし、適度なストレスは生活上の刺激にもなり得るものとも考えられるのですが、他の先進国では、同様の調査結果が30%前後となっており、日本の労働者のストレスの高さがご理解いただけるのではないかと思います。加えて、ここ数年の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、労災の申請・認定件数とも、医療／福祉領域において増加傾向にあり(2020年は全業種中最多)、質の高い医療サービスを提供するためにも、職場における心身の健康づくりは、極めて重要な課題であると考えられます。

亀田メディカルセンター<sup>※</sup>では、すべての職員が利用できるカウンセリングルームとして、「セルフケアサポートセンター」を設置し、臨床心理士・新設された国家資格である公認心理師といった専門資格を有するカウンセラーが、職員からのあらゆる相談の対

応にあたっています。

このような取り組みは、海外では「EAP(Employee Assistance Program)」とよばれています。日本では「従業員援助プログラム」と訳され、2000年頃から注目されるようになりました。業務に関することや職場の人間関係(近年ではハラスメントの問題への関心も高まっています)など仕事に関する悩みや不安はもちろんですが、それ以外にも、自分自身の心身の健康に関すること、家族のことや法律に関する相談など、あらゆる相談に対応し、安心して仕事に専念できる環境づくりを目指すことが、結果として仕事のパフォーマンス向上にもつながると考えられます。ちなみに、相談していることや相談内容が職場に知られることはなく、プライバシーが守られる点も重要で、安心して悩みを打ち明けてもらえる環境づくりに努めています。

自分自身のことの相談に加えて、ご家族のことなどに関する相談も受けていますし、管理職が、様子が心配な部下への関わり方や日頃のマネジメントについて相談されることも少なくありません(例えば、看護部においては、師長と連携して新人スタッフのサポートに取り組んだりしています)。

その他、管理職対象や新入職員対象のメンタルヘルス研修であったり、指導・教え方に関する研修など、働き方や心身の健康管理についての啓発活動も行なっています。

スタッフは皆さん、患者さまのために全力で治療・ケアに取り組んでいて、セルフケアサポートセンターでは、そういった一人ひとりの職員をサポートし、イキイキと働ける職場環境づくりを目指していかせたいと考えています。

<sup>※</sup>亀田メディカルセンターとは、亀田総合病院を中心とした医療サービス施設の総称です。

# スタッフ ひろば

地域医療連携室  
メンバーから

今回のご紹介内容  
・氏名

- ①部署 / 職種
- ②怖い…と思うもの
- ③好きなかぼちゃ料理は？



**蔵本 浩一**

- ①診療部 疼痛・緩和ケア科 医師
- ②ハガチ
- ③クッキー



**大川 薫**

- ①診療部 在宅診療科、地域医療支援部 医師
- ②トラツグミの鳴き声
- ③バーベキューで焼いたやつ



**草薙 洋**

- ①診療部 消化器外科 医師
- ②外科医になりたての頃に見た今の自分の年頃の外科医
- ③カボチャはあまり好きではない



**宮地 康僚**

- ①診療部 腫瘍内科 医師
- ②事故と災害
- ③天ぷら



**渡邊 八重子**

- ①看護管理部 看護師
- ②地震
- ③バーベキューで食すかぼちゃ



**影山 ユウ子**

- ①地域医療連携室 看護師
- ②人間の所業
- ③パンプキンエンパナーダ



**川上 由美**

- ①看護管理部 看護師
- ②狭いところ
- ③かぼちゃのクロック



**吉野 有美子**

- ①総合相談室 看護師
- ②生き物
- ③かぼちゃとトマトのチーズ焼き



**安室 修**

- ①薬剤部 薬剤師
- ②老後の生活
- ③かぼちゃの天ぷら



**鎌田 喜子**

- ①総合相談室 MSW
- ②おばけ・怒鳴り声
- ③カボチャ甘煮・パイ・スープ・仙台で冬至かぼちゃ(甘煮にゆであずしがけ)



**児玉 照光**

- ①総合相談室 MSW
- ②おばけ
- ③かぼちゃ煮



**長江 弘子**

- ①亀田医療大学 教授
- ②思いがけない体重増加
- ③クリーミーでほっこりしたかぼちゃのスープ



**中村 雅代**

- ①地域医療連携室 事務
- ②虫
- ③かぼちゃの煮物



**林 裕子**

- ①地域医療連携室 事務
- ②幽霊
- ③煮物



**黒川 亜純**

- ①地域医療連携室 事務
- ②突然現れるナメクジ
- ③かぼちゃスープ



**伊藤 博章**

- ①地域医療連携室 事務
- ②あり過ぎて書ききれません
- ③塩煮



**生稲 秋穂**

- ①地域医療連携室 事務
- ②災害
- ③かぼちゃのタルト



**大橋 洋子**

- ①地域医療連携室 事務
- ②注射・採血
- ③パンプキンパイ

## 亀田総合病院スタッフの マイブーム

### 「いろいろな修理」

コロナ禍が続いて約2年半が過ぎようとしています。もともと、インドア派の私は、休みの日にはパソコンでネットサーフィンや壊れたものを修理したり、交換するのが日課となっております。ストレスなく過ごしております。

高校が工業高校の電気科であったことから、電気電子製品が好きで、学校帰りにはよく秋葉原の電気街に電子部品を探しに行っていました。高校生当時、NHK スペシャルの番組で「電子立国日本の自叙伝」が特集されていました。電卓戦争から始まった日本の電子産業が世界を席巻していく姿に魅了され、自分でステレオのアンプを作成するなど、修理技術者に興味を持つようになりました。

その後、家庭を持つようになり、家計の足しにと、家財、電化製品の修理やパソコンいじりがマイブームとなっています。

私が、ここ数年で修理や交換したモノは、インターホン、iPhoneの画面とバッテリー、パソコンのハードディスク、玄関周りのタイル張り、ドアノブ、腐ったウッドデッキの交換、シャッターの紐など電子機器から家財まで多くのモノを交換修理してきました。

最近はWebで検索すると、動画で紹介していたり、アマゾンで部品が購入できます。専門業者に依頼するより安く修理できるため、家計に嬉しいマイブームとなっています。今まで、いろいろな修理をしてきました。モノによっては短期間で終わるものから、長期間かかるモノまであり、いずれも集中力と根気が必要となります。こうした作業が日々の業務に役立っていると思います。現在は簡単な修理しかしていませんが、いずれは、トイレや食洗機の交換など専門業者にも負けにくいくらいの修理ができるようになりたいと思います。

みえはる



## 勉強会・研修会開催のご案内

2022年度スケジュール及び開催報告

## 【第1回安房地域特定行為看護師交流会】

～安房地域の医療を支えるための  
特定行為看護師の協働～

高度臨床専門職センター 飯塚裕美

亀田総合病院は、特定行為研修の指定研修機関として、8月6日に安房地域における特定行為看護師の情報共有と、地域での協働を検討するため第1回安房地域特定行為看護師交流会を開催しました。交流会では、安房地域の鴨川市立国保病院、館山病院、安房地域医療センター、亀田総合病院の特定行為看護師が参加しました。第1部では、周麻酔期看護師、PICCチーム、特定行為看護師外来、HCU、訪問看護など各施設で特定行為看護師として質の高い看護を実践している内容が発表されました。

第2部では、安房の地域医療を支えるために特定行為看護師がどのような協働ができるか？ についてディスカッションを行いました。安房地域におけるニーズに対してそれぞれの施設の役割を果たしていくために、現状の課題と、特定行為看護師の施設を超えた人材交流、教育の機会を提供していくことなどが意見交換されました。

第1回の交流会では、特定行為看護師がケアの受け手の生活やその人らしさを大切にして特定行為を交えながらタイムリーに安心、安全な看護を提供していることを共に情報共有することができました。今後、安房の地域医療を支えるために特定行為看護師の役割は重要であり、特定行為看護師が協働して地域医療や看護の質向上に貢献できる仕組みづくりを検討していきたいと考えます。

## 1. 2022年度がん看護基礎コース研修

【日時】 1日目：2022年11月26日(土)8時～17時30分  
2日目：2022年12月3日(土)8時～17時30分

【会場】 亀田総合病院 Kタワー12階会議室

【対象者】 がん看護に興味のある看護師、  
もしくは他職種(経験年数1年目でも可)  
(アンケートに協力できる方に限る)

【申込方法】 同封の申込用紙をFAX、  
もしくはQRコードより申し  
込みをお願いいたします



【締切】 2022年11月11日(金)

\*詳細は同封のご案内をご参照ください

## 2. マインドフルネス勉強会

【日程(予定)】 2023年1月22日(日)

【講師】 井上ウィマラ先生

\*詳細は追ってご連絡いたします

## 3. ELNEC-J

【日程(予定)】 1日目：2023年1月21日(土)

2日目：2023年2月4日(土)

\*詳細は追ってご連絡いたします

今回ご案内しております勉強会ですが、COVID-19の感染状況により、延期・中止の可能性もございます。あらかじめご了承ください。

第1回安房地域  
特定行為看護師  
交流会

